# 腹部大動脈瘤のステントグラフト治療

自治医科大学附属病院 血管内治療センター大動脈治療部(心臓血管外科)

日本では 2006 年に腹部大動脈瘤の治療用のステントグラフトが薬事承認をうけて以降、腹部大動脈瘤の治療法にステントグラフト内挿術が選択できるようになりました。

本年で薬事承認から 7 年が経過することとなりますが、本稿では現在までに使用されているステントグラフトについて簡単に触れ、自治医科大学附属病院循環器センターでの最近 7 年間の腹部大動脈瘤治療の変遷について報告します。

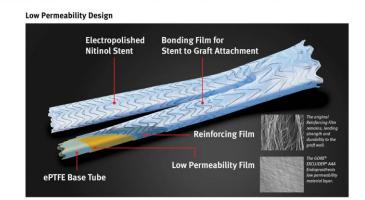


① Zenith / Zenith Flex AAA endovascular graft

2006 年 7 月に本邦初の薬事承認をうけた Zenith AAA endovascular graft とその改良版として 2010 年 7 月より Zenith Flex AAA endovascular graft が使用開始されました。従来よりウーブンポリエステルグラフト + Z ステントで構成された S ピース構造を維持し、Zenith Flex では屈曲 血管への追従性を高めるために S ステントの間隔を広げた構造になっています。ステントグラフトサイズが豊富であり、多様な瘤形態に対応できるのが特徴です。



## Low Permeability Design — Since 2004





Data contained in this document is current through May 15, 2011.

#### ② ゴア EXCLUDER

2007年1月から使用開始となっており、ePTFE グラフト + ナイチノールステントで構成され、標準では 2 ピース構造となっています。屈曲・蛇行血管への追従性に優れ、現在多く使用されているステントグラフトのひとつです。

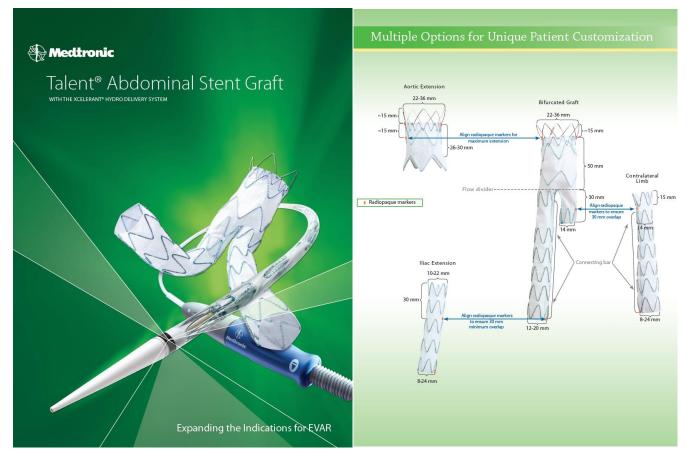






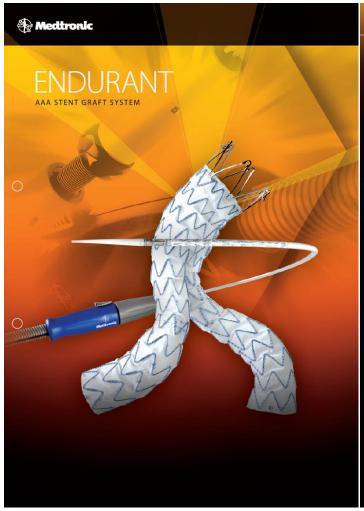
### 3 Powerlink stentgraft system

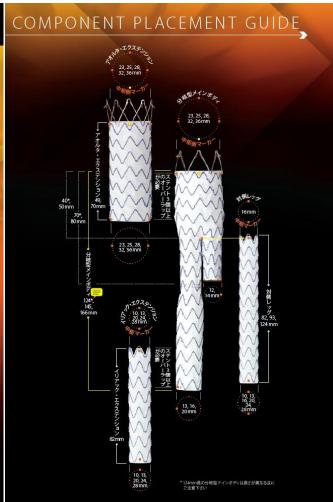
低孔性 ePTFE グラフト + コバルトクロム合金ステントで構成され、標準で 1 ピース構造となっており、大動脈分岐部が狭小な症例で選択されることが多いデバイスです。2008 年 4 月より使用開始されました。2013 年 1 月よりデリバリーシステムに改良が加えられています。

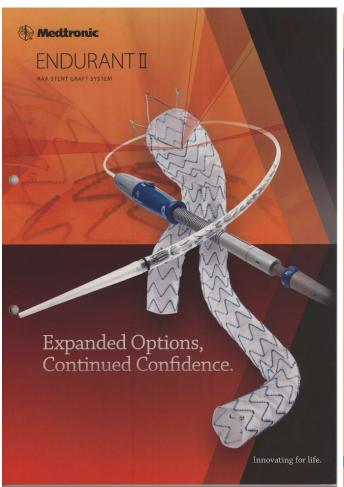


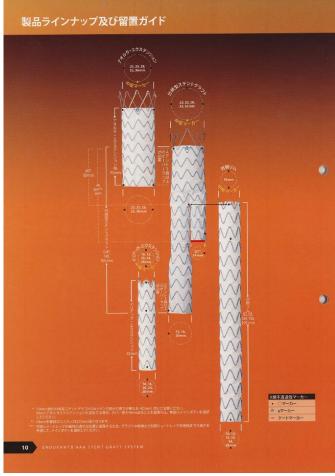
#### 4 TALENT Abdominal Stent Graft

ウーブンポリエステルグラフト + ナイチノールステントで構成され、標準では2ピース構造となります。2010年12月に薬事承認となりました。先行機種と異なり、近位側ネック長10mm以上(以前の機種は15mm以上)で適応の承認が得られています。本邦では後継機種のEndurant認可により現在新規の植え込みは行われていません。









Endurant AAA Stent Graft system

ウーブンポリエステルグラフト + ナイチノールステントで構成され、標準では 2 ピース構造となります。 2011 年 9 月に薬事承認となりました。さらに後継機種の Endurant II についても 2012 年 10 月に薬事承認を得て広く使用されてきています。

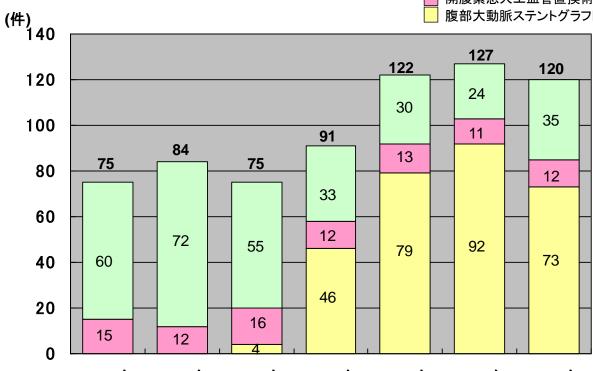
本邦では以上のような企業性デバイスが薬事承認されていますが、その臨床使用には、機種別に 構造などに関する知識や経験を持った医師が携わることとなっており、関連10学会で構成され た日本ステントグラフト実施基準管理委員会により、個々の機種別に実施医、指導医が設けられ ています。

当施設に常勤している企業性デバイスの実施医、指導医については以下の通りです。

- ① Zenith / Zenith Flex AAA endovascular graft:実施医、指導医
- ② Gore EXCLUDER: 実施医、指導医
- ③ Powerlink stentgraft system: 実施医、指導医
- ④ TALENT Abdominal Stent Graft: 実施医、指導医
- ⑤ Endurant / Endurant II AAA Stent Graft system: 実施医、指導医

# 自治医科大学附属病院での近況

• 腹部大動脈瘤における手術件数



2006年 2007年 2008年 2009年 2010年 2011年 2012年

#### 最近7年間の腹部大動脈瘤手術状況

循環器センター(心臓血管外科)では 2008 年 11 月より腹部大動脈瘤ステントグラフト内挿術を開始して、順調に症例を重ねてきています。また、破裂緊急症例などの開腹による手術への対応も従来より迅速に行っており腹部大動脈瘤全体での手術件数では増加傾向となっています。腹部大動脈ステントグラフト内挿術では開始より連続 100 例での統計によると、平均入院期間は 10.5 日(術後入院期間は 5.4 日)、手術死亡 0 でした。今後さらに低侵襲な腹部大動脈瘤治療を提供すべくチーム医療を遂行していく所存です。